

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4090500069
法人名	医療法人 かん養生クリニック
事業所名	グループホーム こもれび
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区湯川新町3丁目7-1 (電話) 093-931-1101

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年9月12日	評価確定日	平成20年10月29日

【情報提供票より】(平成20年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	8人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.27人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000・60,000・70,000円	その他の経費(月額)	(水道・光熱費)20,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(450,000円) *180,000円を5年で償却	有りの場合 償却の有無	有(5年間) *残り270,000円は退去時に精算	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1ヶ月当たり 40,000円				

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	74歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かん養生クリニック / 北九州総合病院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームこもれびは閑静な住宅にあり、周辺には川・田んぼ・公園にあり静かな落ち着いた環境に恵まれている。まだ開設1年しか経過していないが、近隣の方達が花壇づくりを手伝ってくれるなど、自然な交流が育まれている。母体が医療法人として内科・心療内科・精神科・神経科があり、特に認知症に関しては専門医としての経験と実績があり、家族の相談などを受けることも多く「敷居の低いグループホームを開設したい、認知症に悩む方の相談に応じたい」として地域密着型サービスとしての役割を担うべく開設した経緯がある。医療法人の強みを活かし、入居者の緊急時にはいつでも連携をとれる24時間連絡体制も取られている。「良質の介護があるところには医療の必要性は減る」という理念にそい暮らしの充実という視点に立って支援している。ケアやサービスの提供に関して、管理者・職員が日々の入居者との関わりを大切に、自然な暮らしを目指し取り組んでいる。管理者・職員の意欲も高く今後が楽しみがグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、職員全員の意見を聞き自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果は、職員で話し合い改善に努めると共に運営推進会議にも報告し今後の取り組みに活かしたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進委員は、町内会長・自治会長・民生委員・地域包括職員・入居者・入居者家族・理事長・サブマネジャーで構成され、2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催している。会議内容は事業報告を主にして意見交換を行っている。運営推進会議で出された意見はミーティングでの話し合いや法人での検討を行い、運営面に反映できるように取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見や苦情については、苦情相談窓口や相談箱を設置し、要望や意見が気軽に言える雰囲気づくりに努めている。また、家族には入居者の様子を写真をメインにし、コメントを入れ広報誌として毎月郵送している。家族の面会が多く、家族との関係づくりながら、家族の意向などを把握していきたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グループホームの建設時から地域の受け入れは良好であった。地域の方をホーム行事への参加に誘ったり、日々の散歩で挨拶を繰り返しているうちに、グループホームに遊びに来る方や庭の手入れや花壇づくりをしてくれる方が出てきて、開設して1年目であるが、少しずつ地域との連携を高めている。また、運営推進会議を通じて、地域活動や行事に参加できるように努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「こもれびの温かな日の中で優しさに出会い、安らぎを感じ安心した生活を笑顔で過ごして頂けるよう努めます」「お一人お一人の意思を最大限に尊重し尊厳を守ります」「良質な介護を提供出来るようサービスの質の向上を目指し自己研鑽します」を掲げている。職員が一丸となって独自の理念をつくりあげているが、地域密着型サービスの役割を理念に加える必要がある。		平成18年の法改正に伴い、理念に地域密着型サービスの役割を果たす理念の内容が求められ、地域の中で、どのように支援していくのか、地域との関係性を示した理念の検討が求められる。(例.地域との交流のもとなど)
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は何時でも職員が見ることができるに、職員の通用口のドアや壁に掲示している。月1回のミーティング時に理念を確認し、実践に活かせるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設後1年という経過の中で地域との関係づくりはこれからである。日常的には、散歩時の挨拶や行事への参加のお誘いなど行っており、徐々に近隣の住民を中心に広がっている。花壇づくりの手伝いをして下さる方が出てきたり、日々の努力が実を結びつつある。今後は、運営推進会議を活かし、更に行事や地域活動に参加できることを期待したい。		自治会行事に限らず、市民センターの活動や行事など、入居者が参加できる行事や交流の場の情報収集を行い、地域の中で普通に暮らすことができる取り組みとして、更なる情報収集に努め取り組んでいただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者・管理者・職員全員で、評価の意義を理解し意見を出し合い自己評価に取組み、日常のケアやサービスを振り返り、評価結果も今後の実践に活かしていきたいと考えている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、現在の入居状況・普段の生活の報告・活動の報告を行い、意見交換を行っている。会議で出された意見はミーティングや法人内で検討しサービスの質の向上に努めている。今後は地域との連携を図る機会をとらえ、積極的に地域情報の収集や介護相談などを受ける場として活かしていくことが望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターへは足を運び、情報収集を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。北九州市の担当課である介護保険課高齢者福祉施設係担当課など相談・情報交換を行い、関係づくりを高めていくことが期待される。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用している入居者がおり、制度に関して理解している。家族から相談があった場合には、相談内容に応じて、情報や内容の説明を行っている。今後は、権利擁護に関して全職員が理解できるように研修の機会を設け取り組んでいきたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族には「入居者の笑顔を届けたい」と入居者一人ひとりの状況がわかる写真をメインに服薬の状況報告や領収書のコピーなど金銭出納の報告を郵送している。報告の際には、個別に担当者の名前や何かあれば連絡を下さいというメッセージを加え、家族が意向や希望を伝えられるように工夫している。また、検査をした場合は電話で連絡したり、来所時は口頭で報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多く、その際に家族の要望や意見を気軽に言っていただけるように努めている。運営推進会議にて、家族の参加をお願いし、要望や意見を言っていただける機会として活かしていくなど工夫が望まれる。		例えば家族会を設け、管理者や職員が出席せず、家族同士の集まりの場で自由に意見が出せるような機会をつくるなど今後の展開に期待したい。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職に伴い、入居者のダメージを防ぐために、スムーズに職員が移行できるように職員の引継ぎ時間を考慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用に当たっては、グループホームは暮らしの場としてとらえ、個人の暮らしを充実していく視点から採用している。職員は、生き生きと勤務できるように研修の充実を図るなど取り組んでいるところである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の人権を尊重したケアが継続できるように、ミーティング時に学習している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	経験に応じ、入職時に個別に指導を行い、研修受講などをバックアップしている。北九州市社会福祉研修所・北九州市ボランティア大学校などが主催する多彩な研修情報を把握し、職員が研修できるように支援している。研修受講後の他の職員の伝達研修の充実も図りたいと考えている。		職員の伝達研修の記録の充実が求められ、各職員の記名・捺印などが必要である。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	母体が医療法人であるため、そのネットワークを活かし、他のグループホームと交流することを心がけている。相互訪問などを行い情報交換など互いに質の向上に向け取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居の前には、入居者と家族に見学に来てもらい、他の入居者とお茶飲みや談話していただき、安心して入居できるように努めている。家族ともよく話し合い、納得して入居していただけるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	調査当日の昼食はお好み焼きで、入居者が生き生きとお好み焼きをひっくり返したり、思い思いに好みの味付けを行い、入居者と職員がお互いに助け合い暮らしている状況が実感できた。日々の中では、共に料理をしながら料理のコツを教わったり、野菜づくりの智恵や花の名前・昔の歌を教わり、互いに支えあう関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の状況が把握できるように会話の時間を多く持つようになっている。センター方式を採用し入居者の思いや意向の把握に努めると共に家族の意見も尊重している。今後は更に生活歴や生育歴を深く掘り下げ、職員の日々の気づきの共有化を図り、入居者一人ひとりの実像をとらえていくことが期待される。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を採用し、入居者の意思・意向を取り入れ、家族・職員の意見を反映した介護計画の作成に努めている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月に1回行っているモニタリングの結果や状況の変化に伴い、家族や職員に相談して、現状に応じて変更・追加を行っている。モニタリングの際には、短期目標の達成度・本人、家族の満足度を確認し、現状に即した介護計画の作成を行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>法人が医療法人のため、OTによる週1回のリハビリ体操や看護師との連携による状態変化に応じた支援など、法人のマンパワーの応援がある。法人の代表が認知症ケアの専門医であるため、家族の安心が大きい。また、法人が主催するイベントに参加するなど楽しみごとの機会が多い。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者全員が本医療法人かん養生クリニックをかかりつけ医としているため、院長による定期的な往診により、適切な医療を受けることができている。また、必要に応じて看護師による支援を受ける体制がある。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	家族の意向としてターミナルの要望は一般的に高く、重度化や終末期については、早めに関係者全員で話し合い、方針を共有することが求められる。方向性としてターミナルのルールなど検討が期待される。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日常生活の中で、入居者に対する声かけや対応については、職員間で注意し、一人ひとりに配慮するように努めている。個人の記録類は事務所コーナーがあり、管理・保管を行い、個人情報保護に関して配慮した取り組みがある。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	野菜づくりの好きな入居者は、入居者のペースで野菜づくりを行い、散歩に出かけたい入居者には職員がついて、入居者一人ひとりの個別の対応を心がけ、できる限り、入居者の希望にそえる時間を過ごしていただけるように取り組んでいる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は職員・入居者みんなで作ることを基本に、一緒に調理を行い、配膳・後片付けも一緒に行うように努めている。また、職員と入居者は同じテーブルを囲み、和やかに会話を楽しみながら食事をしている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴日・入浴時間は入居者の希望を優先し、1対1の対応で入浴が楽しいものになるように努めている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者が得意とすることを把握し、得意とすることに力を発揮してもらうことで、楽しみになるように支援している。散歩は個別で楽しんでいただけるように支援している。また、月1回は気晴らしになるように外出の機会を設けている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の一人ひとりの希望や趣味・活動などが行えるように個別に外出を支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中玄関に鍵を掛けることの弊害は理解しており、センサーを検討中である。現在の状況では徘徊をする入居者があり、安全が保てないと判断し、6月から玄関のみ錠をかけている。入居者の希望に応じ開けるようにしている。センサーの導入後、鍵をかけないケアを実践することが求められる。		施錠しなくても、入居者の安全が保てるように、センサー等の導入を検討しており、鍵をかけないケアの実践に取り組みが期待される。
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署の指導により年2回の総合訓練を実施している。防災マニュアルを整備し、地域の方々と助け合えるように働きかけている。		住宅地にグループホームが位置するため、地域の協力・連携が必要である。運営推進会議を活かし、委員の協力を得て、まずは委員の方の参加をお願いするなど、地域の参加が広がる取り組みが望まれる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	水分量は1リットルを目安に摂取できるように工夫している。また、食事量も個別に調整している。体重は月に1回測定して、体重の変化にも注意し、必要な摂取量を確保できるように努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用部分は明るく天井も高く広々としており、対面キッチンや和室コーナーもあり家庭的な雰囲気に満ちている。また、季節に応じた飾りや庭に咲いた花をテーブルに飾り、季節を感じられるように工夫している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室のタイプが3タイプあり、広さや間取りなどに工夫がある。入居者には、使い慣れた物を持って来てもらい、居心地良く過ごせるように配慮している。カーテンについては入居者に好きなカーテンを持ってきていただき、自分の住まいとして落ち着いて暮らせるように配慮している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			